

子どもの本と文化を、子どもの未来のために—

平成25年度

事業報告

一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

INTERNATIONAL INSTITUTE FOR CHILDREN'S LITERATURE, OSAKA

平成 25 年度 事業報告

平成 25 年度は、当財団が平成 22 年度に新体制で再スタートして以来の転機となった年度でありました。

平成 25 年 4 月 1 日付で、新公益法人制度に基づく財団に移行するとともに、名称を「一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団」と改称しました。新しい定款のもと、組織機構・役員の大規模な改編等、これまでの体制を抜本的に変更するものでありましたが、将来にわたって当財団の法的基盤は確立することができたと考えております。

また、旧児童文学館から「大阪府立中央図書館 国際児童文学館」への移行期間（平成 22～24 年度）満了後の大阪府および府立中央図書館との新たな枠組みが始動しました。財団に関わる大要としては、大阪府において専門員の雇用を最長 3 年間延長すること、およびこれまで財団が行ってきた寄贈資料の受入れ業務について、大阪府からの受託事業とされたことでもあります。

新たな関係構築の中で、当財団は大阪府および中央図書館と引き続き緊密に連携・協力を図り、所期の目的であります「国際児童文学館」が、貴重な資料を収集・保存・活用し、円滑に事業を実施できるよう、必要な役割を果たしてまいりました。

事業については、これまでどおり幅広く展開してきましたが、とりわけ子どもゆめ基金助成による教材開発事業や新財団発足記念出版など、新規事業にも積極的に取り組んだところです。その結果、財政規模は、前年度比で約 1 千万円、5 割増と大きく拡大しました。

また、平成 25 年度決算における単年度収支は、約 370 万円の赤字となり、従前の約 700～900 万円の赤字と比べ、大幅に改善することができました。これは臨時的な要因によるところが大きく、厳しい状況に変わりはありませんが、将来的にできるだけ安定的な運営ができるよう引き続き努力してまいります。

個々の事業については、平成 25 年度事業計画にもとづき以下に報告します。

○役員会等の開催状況

1. 評議員会

回	開催年月日	議 事 内 容
第1回	25.4.26	(1) 役員の選任について
第2回	25.6.28	(1) 平成24年度事業報告について(報告) (2) 平成25年度補正予算について(報告) (3) 平成24年度収支決算について

2. 理事会

回	開催年月日	議 事 内 容
第1回	25.4.16	(1) 平成25年度第1回評議員会の招集について
第2回	25.6.21	(1) 平成24年度事業報告について (2) 平成24年度収支決算について (3) 平成25年度補正予算について (4) 平成25年度第2回評議員会の招集について
第3回	26.3.18	(1) 平成26年度事業計画について (2) 平成26年度収支予算について

[公益事業の部]

I 講座、講演会等を通じた子どもの本の普及活動

下記講座等を、主催事業または講師派遣により実施し、ボランティアとの協働をすすめることにより、子どもの読書活動を推進した。

1. 大人向け講座・講演会

(1) 指導者養成のための講座

子どもの読書活動にかかわるボランティア、司書、学校司書、教員等への本の選び方や読書活動のありように関する研修、講座のための講師を派遣した。

- ・実施回数：27回
- ・講座内容：本を選ぶ・本を読む・新しい本の紹介・読書活動について等
- ・対象：教員（6回）、文庫・読書活動ボランティアグループ（15回）、司書・学校司書（6回）

(2) 保護者や子どもの本に関心のある人へのアプローチ

○講演会「絵本作家ローレン・チャイルド自作を語るーあたしのなやみは無限大」の実施

- ・開催日：平成26年3月15日（土）
- ・場所：大阪府立中央図書館
- ・内容：絵本作家の講演会
- ・講師：ローレン・チャイルド（英国の絵本作家）
- ・対象：教員、保育士、司書、学校司書、読書活動推進関係団体、府民等
- ・参加者：95人
- *後援：大阪府立中央図書館、大阪府子ども文庫連絡会
- *賛助企業：近畿日本鉄道株式会社、サントリーホールディングス株式会社、パナソニック株式会社、ムサシ・アイ・テクノ株式会社、株式会社富士通システムズ・アプリケーション&サポート

(3) 子どもの本の魅力や子どもと本を共有することの大切さを伝える講座のための講師や審査員を派遣した。

子どもの本を楽しむ会（9回）

保護者向き児童文学・絵本講座・フォーラム（9回）

第9回大阪こども「本の帯創作コンクール」

第23回箕面手づくり紙芝居コンクール審査員（箕面市）

平成25年度「心の輪を広げる体験作文」審査（大阪府福祉部）

第32回人権啓発詩・読書感想文審査会（大阪府府民文化部）

JBBYオーナーリスト選考会（1回）他

2. 本と子どもを結ぶ活動

(1) 学校等で物語体験ワークショップや絵本作り等を計5件実施した。

小学生（3件）、少年自然の家（1件）

日中韓子ども童話交流2013（於：日本 1件）

(2) 児童養護施設でのおはなし会の実施

大阪府域の児童養護施設でおはなし会を開催した。（2回）

(3) 図書館等でのおはなし会・人形劇の実施

①大阪府立中央図書館こども資料室でおはなし会と人形劇を開催した。

出演：職員、おはなしポップ、人形劇サークルぱれっと

おはなし会 6回、人形劇1回

②吹田市立山田駅前図書館でのおはなし会を実施した。（2回）

出演：職員、おはなしポップ

(4) 作家との絵本作りワークショップの実施

英国の絵本作家ローレン・チャイルド氏を招いて、子ども向け絵本作りワークショップ「絵本作家ローレン・チャイルドさんと絵本を作ろう！」を開催した。

・日時：平成26年3月16日（日）

・場所：万博記念公園内 自然観察学習館

・参加者：小学生37人 大人38人

*後援：大阪府立中央図書館、大阪府子ども文庫連絡会

*賛助企業：近畿日本鉄道株式会社、サントリーホールディングス株式会社、
パナソニック株式会社、ムサシ・アイ・テクノ株式会社、
株式会社富士通システムズ・アプリケーション&サポート

*独立行政法人 日本万国博覧会記念機構助成事業

(5) 図書館等での街頭紙芝居の実施

・事業名：むかしの紙芝居・子どもの絵本を楽しもう

・日時：平成25年8月11日（日）

・場所：大阪府立中央図書館 大会議室

・出演：三邑会・当財団職員

*後援：大阪府立中央図書館、三邑会

*子どもゆめ基金助成事業

(6) 「おはなしモノレール」の実施

子どもが絵本や物語の世界の楽しさを知り、より本に親しむきっかけづくりと親子のふれあいの機会の創出を目的として、平成19年度から実施している、貸し切りモノレールの中でのおはなし会と彩都での「人形劇」を楽しむ子ども向き

イベント「おはなしモノレール」を実施した。

- ・日 時：平成 25 年 11 月 2 日（土）
- ・定 員：240 人（申込者：392 人 約 1.6 倍）
- ・参加費：500 円
- *協 賛：大阪高速鉄道株式会社、独立行政法人日本万国博覧会記念機構、
阪急不動産株式会社、株式会社ベネッセコーポレーション
- 協 力：彩都（国際文化公園都市）建設推進協議会
- *子どもゆめ基金助成事業

(7) 体験ワークショップ「いろいろ絵本づくりにちょうせん!!」の実施

「ドキドキ絵本づくり for Kids」制作のため、小学生を対象に 6 回連続絵本づくりワークショップを実施した。

- ・日 時：平成 25 年 6 月 9 日（土）、7 月 27 日（土）、8 月 24 日（土）、
9 月 28 日（土）、10 月 19 日（土）、11 月 23 日（土・祝） 全 6 回
- ・定 員：15 人
- ・参加費：無料
- *子どもゆめ基金助成事業

3. ボランティアの参加と協働による事業の充実

(1) ボランティア研修講座の開催

- ・回 数：3 回（自主研修・打ち合わせ研修）
- ・対 象：平成 25 年度ボランティア登録者
- ・内 容：おはなしの語り方、絵本の選び方、おはなし会の打ち合わせ

(2) ボランティア登録者の事業参加

当財団のボランティア研修講座及び人形劇講座を修了したボランティア登録者に、上記 2 「本と子どもを結ぶ活動」の各種事業等への参加を求め、協働することによって事業の充実を図った。あわせて、財団事業の広報チラシ配付等についても協力をお願いした。

①おはなしポップ

- ・登録者数：15 名
- ・活動回数：13 回
- ・活動場所：おはなしモノレール（1 回）、大阪府立中央図書館（6 回）、
吹田市立山田駅前図書館（2 回）、児童養護施設（2 回）、
EXPO'70 パビリオン（2 回+展示受付 13 日）

②人形劇サークルぱれっと

- ・登録者数：5 名
- ・活動回数：2 回
- ・活動場所：大阪府立中央図書館（1 回）、おはなしモノレール（1 回）

II 子どもの本の文化に親しむ機会の提供

○創作童話・絵本の募集コンクール

「第30回 日産 童話と絵本のグランプリ」事業を実施した。

- ・応募数：童話 2,321 点（前年 2,335 点） 絵本 481 点（476 点）
計 2,802 点（2,811 点）
- ・予備審査：平成 25 年 11 月 15 日（金）～18 日（月）
- ・本審査：平成 25 年 12 月 7 日（土）、8 日（日）
- ・表彰式：平成 26 年 3 月 9 日（日）
日産自動車株式会社グローバル本社（横浜市）

*協賛：日産自動車株式会社

III 教材開発を通じた子どもの読書活動の推進

1. 「ほんナビきっず」の開発・普及

子どもがインターネットで楽しく遊びながら、ことばや感情を選ぶことによってお気に入りの本に出会うシステムを株式会社富士通システムズ・アプリケーション&サポートとともに開発したが、今年度も図書データの追加更新と普及に努めた。
新刊あらすじ・キーワード データ投入件数：932 冊

2. 「ネットで体験！絵本づくりワークショップ」の開発・公開

ウェブサイト上で、絵本について学ぶことができ、実際に作ってみることができるコンテンツを「ドキドキ絵本づくり for Kids」として開発した。過去に実施した絵本作家のワークショップの紹介や、子どもが作った絵本を公開。

*子どもゆめ基金助成事業

IV 子どもの本を通じた国際交流事業

海外の作家を招いた講演会や、海外への日本の児童文学の情報提供及び海外との子どもの本に関する資料の交換を行うことにより、国際的な視野での読書活動推進を行う。

1. 国際講演会（再掲）

- ・日時：平成 26 年 3 月 15 日（土）
- ・場所：大阪府立中央図書館 大会議室
- ・内容：「絵本作家ローレン・チャイルド自作を語るーあたしのなやみは無限大」
- ・講師：ローレン・チャイルド（イギリス）
- ・参加者：95 人
- ・参加費：1,000 円

*後援：大阪府立中央図書館、大阪府子ども文庫連絡会

*賛助企業：近畿日本鉄道株式会社、サントリーホールディングス株式会社、パナソニック株式会社、ムサシ・アイ・テクノ株式会社、株式会社富士通システムズ・アプリケーション&サポート

2. リンドグレーン記念文学賞（ALMA）受賞候補者の推薦

児童文学に関する国際的な賞であるALMAの受賞候補者を推薦した。

この賞は、2002年児童文学作家アストリッド・リンドグレーンを記念して、スウェーデン政府が設立した。世界中の子どもが文学への関心を深めること、「子どもの権利」を世界レベルで守っていくことを目的とし、毎年、作家や画家、ストーリーテラー、読書普及活動団体などに贈られる。世界各地に推薦団体がある。

3. 情報、資料交換

当財団の活動及び日本の児童文学の状況について紹介した「IICLO REPORT」（英文レポート）を電子メール等で、海外の児童文学専門機関等に提供するとともに、ホームページで当財団の事業などの情報を提供した。また、海外の関係機関と情報、資料の交換を行った。

資料と情報の交換対象機関

- ① 国際児童文学学会（オーストラリア）
- ② 国際児童図書評議会（カナダ）
- ③ フィンランド児童文学研究所
- ④ ミュンヘン国際青少年図書館（ドイツ）
- ⑤ グリム博物館（ドイツ）
- ⑥ スウェーデン児童文学研究所
- ⑦ スイス児童および青少年メディア研究所
- ⑧ Seven Stories（英国・子どもの本センター）
- ⑨ 建国大学 童話と翻訳の研究所（韓国）
- ⑩ 浙江師範大学 国際児童文学館（中国）
- ⑪ アメリカ議会図書館（アメリカ合衆国） 等

V 国際児童文学研究賞（国際グリム賞）事業

世界の児童文学研究に貢献する人々の業績を顕彰することにより、国際的な児童文学研究の振興に寄与する。平成25年度は第14回授賞式と受賞者の講演会を行った。

- ・日 時：平成25年10月27日（日）14時～16時45分
- ・場 所：大阪国際交流センター
- ・演 題：知られざる英国児童文学史
-1910年～1949年の見過ごされてきた作品を中心に-
- ・受賞者：キンバリー・レイノルズ（英国）
- ・参加者：113人
- *主 催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団、財団法人 金蘭会、
大阪府立大手前高等学校同窓会 金蘭会

VI 大阪府子ども読書活動推進連絡協議会への参画

大阪府が推進する「第2次子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもの読書活動に関わる他の団体・組織とともに、府内のすべての子どもたちが本を読む喜びを味わい、豊かな感性をもつことができるような環境づくりに努める。そのため、標記協議会に委員として参加し、会議に出席した（2回）。

VII 研究及び出版等の企画事業

1. 共同研究・調査の実施

当財団職員と子どもの本に関わる分野の専門家が学際的に協働し、研究を行う。研究成果については、学会や「紀要」で発表するほか、当館のホームページに登載するなど広く普及し活用を図る。

○「明治・大正・昭和前期における児童出版文化史の研究」

故・南部新一氏（元博文館編集者）旧蔵資料にある巖谷小波作品を中心に、調査研究を外部研究者とともに行った。

- ・研究会（6回 平成25年5月3日、7月14日、9月16日、11月10日、12月21日、平成26年3月21日）

・講演会・シンポジウム

「巖谷小波研究の現在－没後80年、児童文学研究の可能性を考える」

第一部：講演会「巖谷小波について～人とメルヘン～」講師：巖谷國士氏

第二部：シンポジウム「巖谷小波研究の現在－没後80年、児童文学研究の可能性を考える」

登壇者：金成妍氏、中川理恵子氏、勝尾金弥氏（ビデオ出演）、

藤本芳則氏、助言者：巖谷國士氏、コーディネーター：土居安子

（日本児童文学学会第52回研究大会、於：広島経済大学、平成25年11月10日）

- ・『大阪国際児童文学振興財団研究紀要』第27号（研究ノート3本、報告1本）

*独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究（C）

23～25年度

2. 出版企画・展示企画

(1) 「第29回ニッサン童話と絵本のグランプリ」受賞作品の出版

- ・童話優秀賞一席受賞作品『わけありリンゴのアップルパイ』
- ・絵本大賞受賞作品『ゆみちゃんはねぞうのわるいこです』

BL出版（株）と提携 平成25年12月刊行

(2) 博物館、文学館等における展示企画

- ・日 時：平成25年7月20日（土）～8月4日（日）10時～17時
- ・場 所：EXPO'70パビリオン（吹田市万博記念公園内）
- ・テーマ：夏休み大特集：子どもの本に見る科学の不思議！

- ・内 容：「科学」をテーマにした明治期からの子どもの本・雑誌の展示、おはなし会「びっくり はっけん かがくのふしぎ」（7月20日）科学あそび「吹き矢をとぼそう！」（7月28日）、『宇宙』短歌をみんなでつくろう！（8月3日）の開催
- ・参加者：2,570人
- ・展示リスト、夏休み自由研究ブックリスト（低学年、高学年対象）の配布
- ・後 援：大阪府立中央図書館、一般社団法人 関西環境開発センター
- *独立行政法人 日本万国博覧会記念機構助成事業

3. 論文集「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」第27号の発行

論文の公募を実施 1本

特別研究員および当財団職員による論文等 3本 計4本掲載

国際グリム賞受賞記念講演録

講演会・シンポジウム記録

研究プロジェクト報告

4. 新財団発足記念出版

図書館司書、学校図書館司書、読書活動ボランティアなどの方々を読者対象として、過去のレファレンスの蓄積を生かした子どもの本、子どもの読書活動に関わる楽しく読めて学べる入門書を刊行した。

『子どもの本100問100答』 株式会社創元社 平成25年8月

5. 特別研究員制度の活用

財団が企画・実施する研究に対して、共同・協力して研究を行おうとする外部研究者を特別研究員とする。

今年度は7名。上記1の共同研究、『研究紀要』への寄稿等の協力を得た。

VIII 児童文学等に関する図書、記録その他の資料の収集

児童書、および児童書に関する資料について幅広く寄贈を受けた。寄贈された資料は、永久保存および一般の利用に供するため、大阪府立中央図書館 国際児童文学館に引き継いだ。

- ・日本及び外国の児童図書
- ・児童文学・児童文化に関する研究書
- ・整理業務及び閲覧に必要な参考資料
- ・上記についての雑誌、新聞等の逐次刊行物

IX 子どもの本の文化の振興・発展に関する事業等

企業や支援者・団体等と連携を図り、子どもの本の文化の振興・発展に関するさまざまな事業に取り組んだ。

1. 情報発信事業

(1) ホームページの作成

ホームページを日常的に更新し、以下の活動を行った。

- ① 当財団の事業、研究成果などの紹介
- ② 「ほんナビきつず」、「子どもの本 いま・むかし」、「本の海大冒険」、「日本の子どもの本 100 選」の管理・運営
- ③ 国内の児童文学・児童文化関連事業の情報収集・発信

(2) メールマガジンの発行

毎月 1 回（20 日頃）発行。

登録会員数：1,392 人（平成 26 年 3 月 20 日現在）

2. 広報活動

(1) 報道機関等への情報提供

報道機関等へ、事業等について積極的に情報提供を行うほか、大阪府のホームページなどの広報媒体への資料提供を行った。

(2) レポートの発行

財団の 1 年間の活動状況を報告するレポート「大阪国際児童文学振興財団 REPORT No. 3」を発行した。年 1 回

3. 寄付金募集

財団事業を充実させるとともに、児童文学に関わる方々や企業・団体とともに事業展開を進めるため、財団を支援いただけるように寄付を呼びかけた。

平成 25 年度実績 1 4 0 件 3,453,255 円

[収益事業の部]

I 企業等が行うイベントや出版・展示に協力する事業

子どもの本の発行や、子どもと本を結ぶ事業を行なおうとする企業・団体等から業務委託を受ける。

1. 出版企画

(1) 出版社等による図書出版にかかる企画・制作業務の受託

博文館創業 120 周年記念「少年少女譚海」の復刻のための調査、企画会議等を行った。

委 託 元：株式会社博文館新社

(2) 出版社等による図書データ作成・企画協力業務の受託

「進研ゼミおすすめ本 1 0 0 0 冊」推奨本の追加・変更 96 冊を選定し、子ども向け紹介文を作成した。

委 託 元：株式会社ベネッセコーポレーション

(3) 出版社等による企画協力業務の受託

- ・カレンダー「Fairy Tale 世界名作物語紀行」監修

委 託 元：真生印刷株式会社

- ・「ミラノマンガフェスティバル (2013)」出品作品著作权調査

委 託 元：株式会社アサツー・ディ・ケイ

II 出版物の販売及び著作権管理にかかる事業

1. 当財団発行の出版物の販売

事業報告集や「国際児童文学館紀要」等を販売した。

2010 年度国際交流事業報告集	1 9 冊
2011 年度国際交流事業報告集	2 4 冊
2012 年度国際交流事業報告集	5 9 冊
フォーラム報告集	1 5 冊
アジアの論文集	2 0 冊
国際児童文学館紀要	9 冊

2. 著作権管理に関する事業

「ニッサン童話と絵本のグランプリ」受賞作品等の著作権管理を行った。

Ⅲ 児童文学等に関する寄贈図書資料受入事業

大阪府立中央図書館から寄贈資料の受入れに関する業務を受託し、出版社等からの寄贈資料にかかる受入れ業務を行った。受け入れた資料については図書館に引き渡し、図書館内部の手続きを経た後、大阪府立中央図書館 国際児童文学館に受け入れられた。

引渡件数：図書 3,503 冊、雑誌 3,692 冊、その他資料 871 点 計 8,066 点

平成 25 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成 26 年 6 月

一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団